

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書
～株式会社ミツイバウ・マテリアル～

2021年12月24日
株式会社百五銀行
ソリューション営業部

1. はじめに

百五銀行は、株式会社日本格付研究所の協力を得て、国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という。）が策定した「ポジティブ・インパクト金融原則」に則り、株式会社ミツイバウ・マテリアル（以下、ミツイバウ・マテリアルという。）の包括的なインパクト分析を行った。

百五銀行は、本評価書で特定されたポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの緩和に向けた取組みを支援するため、ミツイバウ・マテリアルに対し、ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、本ファイナンスという。）を実行する。

➤ 今回実行する本ファイナンスの概要

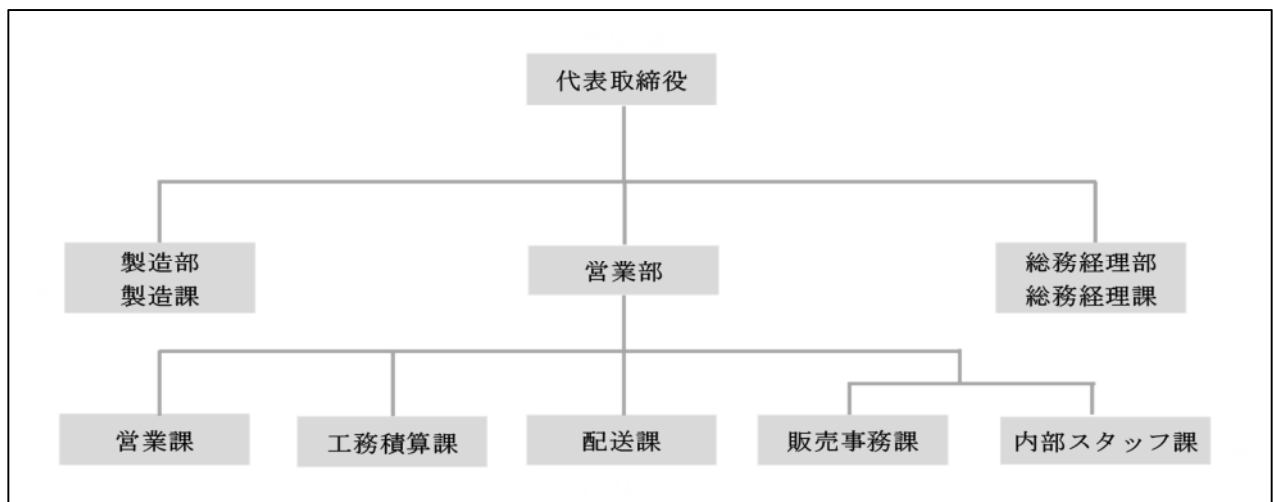
契約期間	2021年12月24日～2026年12月24日
金額	100,000,000円
資金使途	運転資金
モニタリング期間	5年間

2. ミツイバウ・マテリアルの企業概要

(2021年12月24日現在)

企業名	株式会社ミツイバウ・マテリアル
所在地	三重県松阪市高須町 3460 番地 125
従業員数	59 名
資本金	60 百万円
事業内容	鉄鋼二次製品、建築資材の製造・加工・販売・施工
沿革	<p>1951 年 創業者三井仲三が三井金物店として創業</p> <p>1968 年 鉄鋼二次・三次製品に業務拡大</p> <p>1974 年 法人に改組 三井金物株式会社となる</p> <p>1977 年 加工センター開設 建築板金加工・成型を開始</p> <p>1988 年 三重県知事許可（般 63）第 13047 号 屋根・板金工事業取得</p> <p>1994 年 株式会社ミツイバウ・マテリアルに社名を変更</p> <p>1996 年 三重県知事許可（般 7）第 13047 号 建築工事業取得</p> <p>2010 年 ISO14001 認証取得</p> <p>2011 年 「ペレットストーブ」の全国販売開始</p> <p>2019 年 みえの働き方改革推進企業 登録</p> <p>2020 年 三重とこわか健康経営カンパニー2020（ホワイトみえ）認定 三重のおもてなし経営企業選 受賞</p> <p>2021 年 健康経営優良法人 2021 認定</p>

➤ 組織図



3. ミツイバウ・マテリアルの事業活動

▶ メーカーであり、商社であり、施工店

ミツイバウ・マテリアルは、2021年に創業70周年を迎えた建築資材、住宅設備機器の総合商社である。本社を置く松阪市を中心に三重県全域を営業エリアとして、同業においては県内トップクラスとなる500社を超える取引先を擁している。金属製屋根材、外壁材などの鉄鋼二次製品をメイン商材として扱い、コーポレートカラーである紫色の自社トラックでエリアごとにと取引先へ配送している。

従来型の建築資材だけでなく、数多くの環境関連商品も取り扱っており、廃材を利用した木質ペレットを燃料とする「ペレットストーブ」においては、イタリア・リンカル社の日本総輸入販売元として全国に販売を展開している。



ミツイバウ・マテリアルの本社外観



自社トラック

建築資材の卸売のみにとどまらず、1977年に自社の加工センターを開設して以降、金属製屋根材や外壁サイディング材の加工・成型事業も手掛けており、取引先の多様なニーズにオーダーメイド加工に対応できる「メーカー」としての機能も有している。

また住宅リフォーム、屋根板金工事をはじめとする施工についても自社で請け負うことができる体制を構築しており、近年では公共施設や工場といった住宅以外の施設にも施工対象を広げている。

年々、ノウハウと取引先からの信頼を積み上げ、10年前に約20%であった全売上高に占める施工部門の売上高割合は、今では50%を超えるまでに伸長している。



ミツイバウ・マテリアルが施工に関わった施設（左：四日市市、右：鈴鹿市）

このように「メーカー」、「商社」、「配送業者」、「施工店」の機能を併せ持つことで、材料の提案から施工まで、すべての工程をワンストップで対応できることがミツイバウ・マテリアルの大きな強みとなっている。

▶ 社名に込められた使命

ミツイバウ・マテリアルは、1994年に前身である三井金物株式会社から現在の社名に変更した。

ミツイは創業者の名前「三井」を引き継いだもの、「マテリアル (MATERIAL)」は英語で「材料」や「素材」を意味する言葉である。「バウ」は、ドイツ語で「建築の家」の意味を持つバウハウス (BAUHAUS) からの引用で、バウハウスとは1919年にドイツのワイマールに設立された、美術と建築に関する総合的な教育を行った学校のことである。当時のバウハウスでは、新時代へ向けての工芸、デザイン、建築の刷新が図られ、幾何学的かつ機能主義的なデザインの基礎が作られたとされている。バウハウスのデザインは、今日においても、そこに立ち返らなければならないものとして、数多くの芸術家や建築家に影響を与えている。

ミツイバウ・マテリアルは「三重県の住まいづくり、街づくりをトータルにサポート」することを目指しており、社名の「バウ」には、建物はただ住むためだけでなく、街並みにマッチしたお洒落なものでないといけないという想いが込められている。

単に建築資材、設備を供給するだけでなく、事業を通じて「存在する価値のある街並みづくり」のお手伝いをするのが、自社の使命であると考えている。

▶ 「安全衛生協力会」について

ミツイバウ・マテリアルの事業における特徴的な取り組みとして、卸売業を本業とする企業では珍しく、地域の施工協力企業や一人親方と呼ばれる職人で構成される「安全衛生協力会」を組織していることが挙げられる。

「安全衛生協力会」は、その目的に①地域の職人に対し、PL保険や労災上乗せ保険の付保を中心とする労働環境の改善のサポートを行い、ミツイバウ・マテリアルが発注する工事を安全に施工すること、②工事を的確に施工するために、各職人の作業技術の向上・均一化を図ること、の2点を掲げ、2014年に発足した。

ミツイバウ・マテリアルにとって、地域の職人は建築資材を購入してもらう「得意先」である一方、ミツイバウ・マテリアルが発注した工事の施工作業を担ってもらう「発注先」でもあり、自社のビジネスにとって欠かすことのできないパートナーとなっている。

建設産業特有の課題に対処し、労働環境の改善や作業品質の統一を実現することは、地域の職人だけでなく、施主である取引先、施工業者であるミツイバウ・マテリアルのすべてにとって有益であるとの考えから、「安全衛生協力会」の円滑な運営に全社を挙げて注力している。

現在では発足当初の約2倍となる50業者が参加しており、定期的に研修や安全大会の開催などによって人材の育成を図るとともに、会員への慶弔金の支給や親睦旅行の開催などを通じてチームワークの醸成やコミュニケーションの強化を図る機会も設けている。

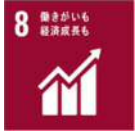
近年、ミツイバウ・マテリアルの施工部門の売上高が伸長し、大きな工事を受注できるようになってきた背景には、この「安全衛生協力会」と築き上げた強固な信頼関係がある。

4. 本ファイナンスの実行にあたり特定したインパクトと設定した KPI (重要目標達成指標)



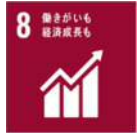
▶ ポジティブインパクトの拡大

	取組内容	KPI	インパクト レーダー	SDGs
環境	<p><u>環境に優しい商材の展開</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ペレットストーブや太陽光発電システムなどの環境関連商品の展開。 施工部門及び卸売部門において、断熱効果が高い資材の活用や廃棄物が少なくなる工法の採用などの提案型営業を推進。 	<p>①【施工部門】2026年度までに、エネルギー使用量削減、水使用量削減及び再生可能エネルギー導入に資する自社施工件数を2020年度比120%とする。</p> <p>②【卸売部門】2026年度まで、エネルギー使用量削減、水使用量削減及び再生可能エネルギー導入に資する商品の販売数量について2020年度比100%を維持する。</p>	水 エネルギー 住居 気候	   
社会	<p><u>福利厚生 の 充実、社員の働きやすい職場環境の整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 時間単位の有給休暇、リフレッシュ休暇、産育休、介護休暇など充実した休暇制度の導入。 35歳以上の全社員に対して、腫瘍マーカー検査の受診機会を提供。 全社員に対して、保険料を会社が負担の上、三大疾病保険、医療保険を付保。 資格取得支援、研修会の実施など人材育成への取組。 	<p>③産休・育休の取得を希望する社員の休暇取得率100%を維持する。</p> <p>④2026年度までに、建築施工管理技師1級または2級の合格者を累計5名以上輩出する。</p> <p>⑤2026年度までに、新卒、中途、技能実習生を問わず、累計15名以上新規採用する。</p> <p>⑥2026年度までに、全社員に対して、保険料を会社が負担の上、GLTD（団体長期障害所得補償保険）に加入する。</p>	健康・衛生 教育 雇用 包括的で 健全な経済	  
	<p><u>地域貢献</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「安全衛生協力会」に所属する職人に対して、PL保険及び労災上乗せ保険を付保。 社員が施工現場で簡易な作業の手伝いを行い、高齢化が進む地域の職人をサポート。 職業体験イベントで、施工体験の場を提供。 フットサルチーム、高校ダンス部、社会人サッカーチームなどに協賛。 	<p>⑦【施工部門】毎年度、自社が施工する工事について、「安全衛生協力会」の職人を対象とするPL保険及び労災上乗せ保険の加入率100%を維持する。</p>	包括的で 健全な経済	

▶ ポジティブインパクトの拡大

	取組内容	KPI	インパクト レーダー	SDGs
経済	<u>地域経済成長に貢献</u> ・地域の職人の労働環境を守る こと、作業品質の均一化を 図ることを目的に「安全衛生 協力会」を設立し、自社の受 注した工事の施工を依頼。 ・職人の収入の安定に貢献。	⑧【施工部門】毎年度、「安全 衛生協力会」が携わる施工件 数について1,000件以上を維 持する。	経済収れん	

▶ ネガティブインパクトの緩和

	取組内容	KPI	インパクト レーダー	SDGs
環境	<u>環境負荷低減活動の推進</u> ・自社社屋、敷地内に太陽光 発電を導入。 ・営業車両のハイブリッド車 への切り替え推進。 ・エコドライブの推進による 燃費向上。 ・廃棄物の分別の徹底。	⑨2030年度における自社の温 室効果ガスの排出量を2021 年度比30%削減する。	エネルギー 気候 廃棄物	 
社会	<u>労働安全衛生の徹底</u> ・環境整備方針を策定。 ・リスクアセスメントを実施 し、労働安全衛生における管 理体制の改善を促進。 ・年に一度のメンタルヘルス チェックを実施。	⑩毎年度、労災事故の発生件数 をゼロとする。	雇用 健康・衛生	

(1) 環境に優しい商材の展開

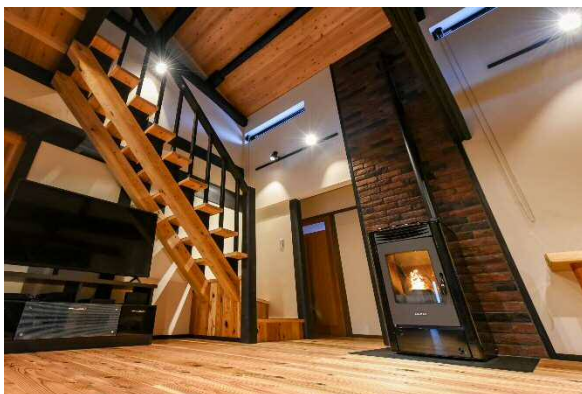
- ▶ インパクトの種別
ポジティブインパクトの拡大
- ▶ カテゴリー
環境
- ▶ UNEP FI が公表しているインパクトレーダーとの関連性
水、エネルギー、住居、気候
- ▶ SDGs との関連性
 - 6.3 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより水質を改善する。
 - 7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に増加させる。
 - 11.6 2030年までに、大気の状態及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。
 - 13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

▶ ミツイバウ・マテリアルの取組内容

ミツイバウ・マテリアルは、2010年にISO14001の認定を取得するなど、過去から環境に配慮した経営を行っている。本業である卸売部門及び施工部門においては、環境に優しい商材を取り扱い、取引先や施主の環境負荷低減に寄与する取組みを行っている。

具体的には、「ペレットストーブ」や太陽光発電、屋上遮熱シートの「冷えルーフ」などを扱っており、自社内でもこれらを環境関連商材と位置付けて、販売に注力している。中でも「ペレットストーブ」は、木質ペレットを燃料としているが、ペレットの材料である樹木が成長過程で吸収するCO₂の量と燃焼時に排出されるCO₂の量が同一であるという「カーボンニュートラル」の仕組みを持つ、実質的に大気中のCO₂の量を増加させることのない商材である。

また、木質ペレットの調達方法も工夫を凝らしており、三重県伊勢市の木材を扱う製造企業とパートナーシップを結んだ上で、製造過程で発生する材木の削り屑を引き取り、燃料に活用することで、資源の有効活用を推進している。



ミツイバウ・マテリアルが取り扱う「ペレットストーブ」

そのほか、取引先との商談の際は、断熱効果が高い資材の活用や廃棄物の少ない工法の採用を薦める「提案型の営業」を推進している。豊富なラインナップの中から、取引先のニーズに合わせて、エネルギー使用量や水使用量の削減などに資する最適な提案を心がけており、例えば JIS 規格でない製品であっても、効果や性能が高いことが確認できている場合は、その裏付けとなるデータなどを丁寧に説明の上、積極的に案内を行っている。特に施工部門においては、近年の環境問題への関心の高まりを受けて、多少の追加コストが発生する場合においても、環境負荷低減効果の大きい資材や工法が選択されるケースが増加している。

脱炭素化の動きが活発化する中、これからも本業を通じた取引先の環境負荷低減に寄与する活動により一層注力していく方針である。

▶ KPI について（文中の丸付き数字は、KPI の通し番号を指す。次号以降、同様。）

百五銀行は、特定したインパクトを計測する定量的な指標として、①施工部門におけるエネルギー使用量削減、水使用量削減及び再生可能エネルギー導入に資する自社施工件数、②卸売部門におけるエネルギー使用量削減、水使用量削減及び再生可能エネルギー導入に資する商品の販売数量、の2点をモニタリングしていく。

(2) 福利厚生の充実、社員の働きやすい職場環境の整備

- インパクトの種別
ポジティブインパクトの拡大
- カテゴリー
社会
- UNEP FI が公表しているインパクトレーダーとの関連性
健康・衛生、教育、雇用、包括的で健全な経済
- SDGs との関連性
 - 3.4 2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて 3 分の 1 減少させ、精神保健及び福祉を促進する。
 - 4.4 2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
 - 5.1 あらゆる場所におけるすべての女性及び女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。

➤ ミツイバウ・マテリアルの取組内容

ミツイバウ・マテリアルは、2019 年から「みえの働き方改革推進企業」の登録を受け、2020 年には「三重とこわか健康経営カンパニー2020（ホワイトみえ）」の認定取得、「三重のおもてなし経営企業選」の受賞、さらに 2021 年には「健康経営優良法人 2021」の認定を取得するなど、社員の満足が顧客の満足につながるのと考えるのもと、社員の働きやすい職場環境作りに力を入れている。

象徴的な取組みとして挙げられるのが、手厚い休暇制度の導入である。時間単位での有給休暇、入社後 5 年ごとのリフレッシュ休暇、産育休、介護休暇などの制度を設け、社員のワーク・ライフ・バランスの実現を支援している。

社員の健康にも配慮しており、費用を会社が負担した上で、35 歳以上の全社員へ腫瘍マーカー検査の受診機会を提供しているほか、2020 年からは全社員に対する三大疾病保険に加入し、さらに 2021 年には新たに医療保険にも加入している。

また、毎年、業務における IT 化や DX 化を進める設備投資を実施しているが、単なる生産性向上や業務効率化ではなく、創出された時間を社員の時間外労働の削減や休暇取得に充てるのが最大の目的であることを行動計画に明記し、その旨を社員にもアナウンスした上で実行している。

ミツイバウ・マテリアルの経営理念として「期待に応える人を創り、企業を創る」を掲げている通り、人材の育成にも注力しており、資格取得支援として特定の資格について受験費用の援助を行っているほか、三井社長を責任者とし、5 年目までの若手社員を対象とする「人財育成研修会」を定期的に開催している。さらにベトナム人技能実習生に対しては日本語の指導も適宜行っている。

社員満足を高め、社員に 100% の力を発揮してもらうために、今後も福利厚生 of 充実、職場環境の整備に継続して取り組んでいく予定である。

➤ KPI について

百五銀行は、特定したインパクトを計測する定量的な指標として、③産休・育休取得を希望する社員の休暇取得率、④国家資格である建築施工管理技師 1 級または 2 級の合格者数、⑤新卒、中途、技能実習生における新規採用人数、⑥社員が病気やケガで長期にわたり就労不能を余儀なくされた場合に、減少した所得を補償する保険「GLTD（団体長期障害所得補償保険）」への加入状況、の 4 点についてモニタリングしていく。

(3) 地域貢献

- インパクトの種別
ポジティブインパクトの拡大
- カテゴリー
社会
- UNEP FI が公表しているインパクトレーダーとの関連性
包括的で健全な経済
- SDGs との関連性
17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

➤ ミツイバウ・マテリアルの取組内容

ミツイバウ・マテリアルは、技能実習生を除いた社員のほぼ全員が三重県出身者で、取引先の9割超が三重県企業というまさに地域密着の企業である。三井社長の「地域貢献につながることは積極的に行っていく」との方針のもと、地域のイベントにも数多く参加している。

例年8月に松阪市で開催される「七夕まつり☆鈴の音市」には毎年企業ブースを出展。三重県立みえこどもの城で開かれている小学生向けの職業体験イベント「キッズ☆おしごと広場」では、子ども用作業服やヘルメットを準備し、本物の工具と建材を使用した屋根の施工体験の場を提供している。

ほかにも、社員が加入する地元フットサルチーム、地元松阪市の三重高校ダンス部、三重県中南勢地域を本拠地とする社会人サッカークラブ「FC. ISE-SHIMA」などへの協賛も幅広く行っている。



職業体験イベントでの様子

また、地域貢献に資する取組みとして、「安全衛生協力会」に所属する職人に対し、PL保険及び労災上乗せ保険を付保していることも挙げられる。近年は、自社の社員が職人のサポートとして施工現場において簡易な作業の手伝いや力の必要な作業も行っており、職人からは高度な業務に専念することができることと好評を得ている。一方で、職人から社員へは技術指導が随時行われており、熟練した技術の継承、さらには職人の高齢化による人材不足の解消につながることを期待している。

➤ KPI について

百五銀行は、特定したインパクトを計測する定量的な指標として、⑦施工部門における「安全衛生協力会」の職人を対象とするPL保険及び労災上乗せ保険の加入率についてモニタリングしていく。

(4) 地域経済成長に貢献

- インパクトの種別
ポジティブインパクトの拡大
- カテゴリー
経済
- UNEP FI が公表しているインパクトレーダーとの関連性
経済収れん
- SDGs との関連性
8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。

➤ ミツイバウ・マテリアルの取組内容

ミツイバウ・マテリアルは、「三重県の住まいづくり、街づくりをトータルにサポート」することを目指し、施工部門において年間 1,000 件を超える施工を受注している。

自社において「安全衛生協力会」を発足させ、定期的に研修会や安全大会を開催し、現場作業を担う地域の職人の作業技術の向上及び各職人間の作業品質の均一化を図った上で、「安全衛生協力会」の参加企業と協業しながら、施工業務を行っている。

地域の住宅・施設を地域の職人がつくるという仕組みを構築することで、ミツイバウ・マテリアルは地域経済の成長に貢献している。

また、一人親方と呼ばれる地域の職人の中には、収入が不安定であったり、ケガや病気により事業を継続できないリスクを抱えていたりする者も少なくないが、この「安全衛生協力会」へ加入することにより安定的に仕事を確保することが可能となっている。

「安全衛生協力会」は、ミツイバウ・マテリアルの事業拡大になくってはならない存在であると同時に、地域の職人の収入の安定化や就業不能リスクへの備えにもつながっており、非常に重要な役割を果たしている。

ミツイバウ・マテリアルのこのような取組みは、UNEP FI が公表しているインパクトレーダーとの関連性において、所得水準の不平等の軽減を意味する「経済収れん」に関するポジティブインパクトに該当する。

➤ KPI について

百五銀行は、ミツイバウ・マテリアルの地域経済成長への貢献度合いを定量的に確認するために、⑧施工部門において「安全衛生協力会」が携わる施工件数についてモニタリングしていく。

(5) 環境負荷低減活動の推進

- インパクトの種別
ネガティブインパクトの緩和
- カテゴリー
環境
- UNEP FI が公表しているインパクトレーダーとの関連性
エネルギー、気候、廃棄物
- SDGs との関連性
12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。

➤ ミツイバウ・マテリアルの取組内容

ミツイバウ・マテリアルは、自社内においても、環境に配慮した経営を実践している。

自社社屋、敷地内に太陽光発電を設置し、自社で使用する電力の一部を太陽光発電で賄っているほか、社内の照明はすべてLEDに切り替えている。社用車においても営業社員が使用する普通車5台を燃費効率の高いハイブリッド車へ切替え済みであり、今年度内にさらに2台を増車予定である。

また、営業社員が使用する普通車及び自社トラックを含む全車両にエコドライブの注意喚起資料を備え付け、社員の意識向上を図っているほか、車両ごとの燃費状況及びアイドリング時間を集計し、月次で管理するなどエコドライブの推進に努めている。

循環型社会の実現に向け、廃棄物についても管理を徹底しており、本社オフィスでのゴミの分別はもとより、施工部門における作業現場で発生する廃材・廃棄物についても確実に分別を行った上で、リサイクル業者へ引き渡している。自社社員に加え、職人や「安全衛生協力会」の会員に対しても分別を遵守するよう現場での声掛けを励行し、意識付けを図っている。

このようにミツイバウ・マテリアルは、温室効果ガスの排出量削減につながる活動、再生可能エネルギーの導入及び廃棄物の分別を通じて環境負荷低減に取り組んでいる。



分別を促すゴミ箱(本社オフィス前)

➤ KPI について

百五銀行は、ミツイバウ・マテリアルの環境負荷低減活動について定量的に確認するため、⑨自社の温室効果ガスの排出量についてモニタリングしていく。

(6) 労働安全衛生の徹底

- インパクトの種別
ネガティブインパクトの緩和
- カテゴリー
社会
- UNEP FI が公表しているインパクトレーダーとの関連性
雇用、健康・衛生
- SDGs との関連性
8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

➤ ミツイバウ・マテリアルの取組内容

ミツイバウ・マテリアルは、社内の労働環境整備が労働安全衛生の基礎であるとの考えから、環境整備方針を定めている。環境整備方針では、整理・整頓・整列・清掃について細かくマニュアル化されており、例えば、「整頓は置き場を決めてそこに置くことであり、必要なものはすべて置き場を決めて明示し、管理者を決め、終業時は定位置に戻す」、「並べ方はすべて水平、直角、平行とする」などと規定されている。運用面では、「受け持ち分担表」を作成し、毎月他部門を点検した上で、各部署の代表者が参加している月に1度の安全衛生委員会において点検結果を公表している。

安全衛生委員会は労災事故の撲滅も活動目的としており、環境整備のほかにも、クレーム報告やリスクアセスメントについても審議している。リスクアセスメントは、①社内のあらゆる危険性を洗い出し、特定する、②労働災害の重篤性や発生可能性を考慮し、リスクを見積もる、③リスクの低減処置案を検討する、という手順で実施し、労働安全衛生における管理体制の改善を図っている。

また、年に1度の社員の健康診断に合わせてメンタルヘルスチェックを実施しており、産業医による心身や勤務状況の確認を行っている。

➤ KPI について

百五銀行は、ミツイバウ・マテリアルの労働安全衛生への取組状況を計測する定量的な指標として、⑩労災事故の発生件数をモニタリングしていく。

5. インパクト管理体制

ミツイバウ・マテリアルでは、2020年に社内で「SDGs委員会」を立ち上げ、全社を挙げてSDGsを推進している。「SDGs委員会」は、各部署1名以上が参加する組織横断的なプロジェクトであり、各部署から提出される推進施策について月に1度の会議を通じて、確認・協議を行っている。

SDGsを社員へ浸透させること、長期ビジョンをつくること、社会貢献のビジネスストーリーをつくることを最大の目的として活動している。



「SDGs委員会」の会議の様子

本ファイナンスを取り組むにあたり、三井社長とSDGs委員会が中心となって、自社の事業活動とインパクトレーダー、SDGsの17ゴール・169ターゲットとの関連性について検討を行った。

本ファイナンス実行後は、三井社長を最高責任者、「SDGs委員会」を担当部署としてKPIの達成に向けた推進体制を構築する。具体的には、「SDGs委員会」の会議などを通じてKPI達成に向けた活動内容について協議し、各部署において実行していく。

- 最高責任者 代表取締役 三井 陽介
- 担当部署 「SDGs委員会」

6. モニタリング方法

本ファイナンスを実行するにあたり設定したKPIについては、百五銀行とミツイバウ・マテリアルが少なくとも年に1度の頻度で話し合う場を設け、その達成状況及び進捗状況について共有する。

百五銀行は、自行が持つノウハウやネットワークを活用し、ミツイバウ・マテリアルのKPIの達成を適宜サポートしていく予定である。

モニタリング期間中に一度達成したKPIについては、その後も達成水準を維持していることを確認する。なお、ミツイバウ・マテリアルの事業環境の変化などにより設定したKPIが実情にそぐわなくなった場合は、百五銀行とミツイバウ・マテリアルが協議し、再設定を検討するものとする。

以 上

注意事項・免責事項

1. 本評価書は、百五銀行がミツイバウ・マテリアルから提供された情報に基づき、評価・作成したものであり、当該情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。
2. 百五銀行は、本評価書を利用したことにより発生するいかなる費用または損害について一切責任を負いません。

➤ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社百五銀行

ソリューション営業部 担当 新保・井村

〒514-8667 津市丸之内 31 番 21 号

TEL (059)223-2382